

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズサポートてみる		
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37	(回答者数) 37
○従業者評価実施期間	2026年1月22日		～ 2026年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(言語聴覚士・理学療法士)配置による支援の専門化。	新たに言語聴覚士(ST)を配置し、ことばやコミュニケーション、口腔機能等への専門的な評価と個別性の高いアプローチを開始した。	全職員の観察・評価スキルの底上げと支援の質の均一化を図る。
2	療育プログラムの再編とSSTの強化。	1日の詰め込み型プログラムを「隔週制」へ変更。一つの活動にじっくり取り組む時間を確保し、SST(社会生活能力訓練)の質を向上させた。	子どもたちの集中力や達成感の変化を詳細に分析し、就学を見据えたより高度な集団適応プログラムへと発展させる。
3	連絡帳アプリを活用した情報の可視化。	保護者が短時間で内容を把握できるよう、報告内容を項目化・整理。写真と併せて「ねらい」を明確に伝える形式へ改善した。	連絡帳を通じた家庭での様子との連動性を高め、保護者との双方向な情報交換をさらに深化させる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多職種連携における協議時間の不足。	専門職が増えたことで多角的な視点が生まれた一方、支援方針を深く協議するための会議時間の確保が追いついていない。	毎日の定例ミーティングにて短時間で効率的に情報共有できる仕組みを整備し、多職種連携を実質化させる。
2	業務の標準化と共有のスピード。	特定の職員に依存する「属人化」した業務が一部残っており、職員間の情報格差が課題となっていた。	業務マニュアルの整備を継続し、誰でも高いクオリティで支援・事務が行える「チーム支援」の体制を盤石にする。
3	専門研修を受ける時間の確保。	日々の直接支援業務を優先するため、外部研修や最新の療育理論を学ぶためのまとまった時間が確保しにくい。	記録業務の更なる効率化を進めて時間を捻出し、オンライン研修や動画教材を活用した「すきま時間研修」を導入する。